1.　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090800170		
法人名	社会福祉法人ふくおか福祉サービス協会		
事業所名	ささえ手ホーム綾		
所在地	福岡市東区水谷1丁目30-22 （電　話）092-674-3330		
自己評価作成日	令和　6　年　2　月　8　日	評価結果確定日	令和　6　年　3　月　28　日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町３－１－７
訪問調査日	令和　6　年　3　月　1　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

[地域に根差し笑顔と一人ひとりの思いを大切にした生活をささえ手]を理念として、日々の入居者支援に取り組んでいます。地域との繋がりを大切に地域活動への参加や地域の方へ行事参加の呼びかけを行い、人との繋がりを大切にしています。アットホームな雰囲気作りを大事にしており入居者様やご家族が安心して生活が出来るよう日々のケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は高台にあり、３階建てで、１階はケアプランセンターと地域交流室、２階と３階がグループホームとなっている。週１回、事業所敷地内に移動販売車が訪問し、利用者や職員以外にも、地域住民も足を運び、交流の場となっている。移動販売があることで、スーパーまで坂道があって買い物に不自由している地域の高齢者からも喜ばれている。在宅酸素や吸入が必要な利用者の受け入れもあり、看取り介護の実績もある。事業所の広報誌を回覧板に挟んでもらい、事業所の状況を地域住民に知ってもらえるよう工夫している。

自己評価および外部評価結果

令和6年3月28日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした施設になるよう事業所理念をみんなが見れるよう各ユニットに掲示し理念に向かい行動できるようにしている。	事業所理念は職員で作り上げ、現在も継続している。理念をもとに運営の目標を設定しており、フロアに掲示しているため第三者も確認できる。管理者は理念に基づいた利用者への関わりができているか、日々の支援方法やミーティングで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	綾での活動を「綾だより」にまとめ回覧板にて紹介させてもらっている。	コロナ禍から徐々に地域との交流機会の拡大に向けて動き始めている。区の社会福祉協議会と連携し、移動販売車が週１回事業所へ訪問している。利用者や職員、地域住民との交流の場となっている。事業活動の様子を広報誌として作成し、回覧板で地域住民へアナウンスしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる文化祭にてささえ手ホーム綾で作成した作品の展示を行っている。 地域で行われる認知症声掛け運動に参加し地域住民との交流を行う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動報告・利用状況を説明報告し参加者の方々よりの情報やご意見を頂きサービス向上につなげるよう努めている。	運営推進会議は２ヶ月ごとに事業所の地域交流室で開催している。会議では利用者状況や事故、身体拘束、行事予定などを報告しており、参加者から意見を聴取しその意見を踏まえ高校生のボランティアを受け入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故等あった場合は、すみやかに市町村窓口へ報告を行っている。また、運営推進会議等で事業所の活動報告等を行い、協力関係を築けるように取り組んでいる。	管理者は日頃から行政と介護保険に関する様々な申請や事故報告などを行い連携している。地域で困っていることや入居相談なども行い、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜以外は施錠せず鈴を取り付ける等で安全対策を行っている。身体拘束をせずに生活できるよう職員全員で話し合い実践に努めている。 身体拘束委員会にて3か月に1回身体拘束の勉強等を行っている。	身体拘束廃止委員会は２ヶ月に１回開催し、全職員が委員となっている。委員会と研修会は同日に行っている。ユニットの入り口は鈴をつけ、出入りが音で分かるようにしている。また、スピーチロック等の不適切ケアがないか職員が話し合い、意識向上につなげている。	

自己評価および外部評価結果

令和6年3月28日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員との面談やケアの実施内容を日常的に確認することで状況把握を行い虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年１回の社内研修にて勉強会がある他、外部研修に参加してもらい、参加内容をユニットミーティングにて周知し理解を深めている。	権利擁護に関する制度について、状況に応じて来園時に説明をしている。制度に関するパンフレット等を準備しているが、職員に対する研修会を実施していない。	権利擁護に関する制度について、研修等で職員が学ぶ機会を設け、職員が制度を理解することにより、事業所が相談窓口、専門職への橋渡し役となることを期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人・ご家族に説明を行い解らない部分がないか確認を行いながら理解して頂けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情・相談窓口を説明及び重要事項説明書に記載している。また、意見箱を設置し自由に意見をいただけるよう体制をとっている。	利用者ごとに職員２名が担当となり、日々の生活支援に深く関わりを持っている。職員は利用者から日常的に意向を聞き取り、家族へ相談したり協力を仰ぎながら、居心地の良い暮らしを目指している。外出や外食、果物の差し入れなどについて要望があり、意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回の職員会議を実施し職員との意見交換を行っている。また、必要時には個人面談を実施し一人一人の思いを確認し運営に反映している。	ユニットごとに月１回ミーティングを開催しており、発言の偏り防止、意見の視覚化とスムーズな進行にするため、開催前に全職員の意見を聴取した文書を作成している。会議では異食行為について話し合い、訪問歯科の意見を交え利用者行動を尊重したケアの実践に繋がる等、職員の意見を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年１回法人による意向調査を実施、職員の意見や希望などを把握するようにしている。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、特に制限は設けていない。職員の経験や得意分野を活かし働くことでやりがいや自信を持って仕事ができるようにしている。	法人は、介護に関する資格取得を目指す職員に対して対策講座を実施している。資格取得の際は祝い金を交付している。育児支援の職員も在籍しており、全職員でサポートしている。外部研修を受講する職員は管理者による指名制を主としている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で年１回、人権研修を実施している。	全職員を対象に利用者をケアする職員の人権、働きやすい職場環境づくりを目指し、最近では、職場におけるハラスメント研修を実施している。職員はオンラインで研修を受講し、報告書を作成している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会は、できるだけ確保できるように努めている。認知症介護実践者研修等も職員のキャリアアップの一環として受講する機会を設けている。連携する訪問看護による勉強会も年3回実施している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域医療ネットワークに加入して、勉強会等に参加し、事業所の運営にいかすようにしている。 また他事業所の運営推進会議に参加させてもらい良い点を取り入れるようにしている。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談や入居前の利用サービス機関からも情報収集し環境の変化があっても安心して生活していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望や困られていることをうかがい不安を解消し、信頼関係を少しずつ築くよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

令和6年3月28日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関等との連携をとり、ご本人の状態、ご本人・ご家族の意向を踏まえ、サービス計画を作成し、支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に合わせ出来る部分は職員と一緒に行い支え合いながら生活できる環境に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他科受診などご家族が付き添える部分は可能な限りお願いしている。必要な備品などの買い物をご家族にお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向などにより配慮が必要な場合を除き、来訪・面会については感染症対策を取りつつに受け入れるようにしている。	職員は利用者の家族構成や生活歴などを個人ファイルで確認し、馴染みの関係性が保てるような支援を目指している。自宅への外泊や友人の訪問、年賀状のやり取り、地域の神社の参拝等を支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性に配慮し職員が間に入ったり、入居者同士の歓談は見守る等孤立することのないよう注意を払うよう心掛けている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談があればいつでも連絡をいただけるようお伝えしている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の生活リズムに合わせ、時々の要望を把握し対応するよう努めている。	職員は日々の関わりの中で、利用者からふと出てくる思いや希望に耳を傾け、意向を確認するようにしている。また、利用者の表情や行動等から利用者の思いを推し測るようにしている。意思疎通が困難な利用者には、家族等から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至る経緯や以前の環境に配慮しご本人、ご家族の意向を確認しながらサービスに活かすよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化に気付き、その都度、状態把握を行い、ご本人が持っている力が発揮できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や意向の確認を行い、医師の意見も反映しプランを作成している。また、月1回のケアカンファで状態確認や課題の抽出を行い介護計画に反映している。	介護計画の見直しは６ヶ月ごとに行っている。サービス内容が実践できているか毎月介護記録等を確認している。サービス担当者会議では職員から意見を聴取し、かかりつけ医や訪問看護の医療的ケアの指示なども反映させている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に心身の状態の記録を記入し職員全員で把握に努めている。申し送り、職員会議で再度確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に出来るだけ添えるよう柔軟なサービスが行えるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の状態に応じ、公園等に散歩に出かけている。公民館にて文化祭を行いささえ手ホーム綾で作成した作品を地域住民の方にみてもらっています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に確認し、かかりつけ医による往診で対応している。特変時には電話連絡により指示を仰いでいる。また、訪問歯科、訪問皮膚科、訪問看護とも連携し対応している。	利用者や家族が希望する医療機関を選択することができる。基本的に家族が受診に同行することとしており、受診の際は、職員が家族に口頭や記録を渡す等して情報を伝達している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、訪問看護師と協力し、日常的な気づきを報告し、連携をとっている。訪問看護師も顔なじみになり入居者の方も安心されておられる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は主治医より入院先の医療機関に連絡を行い状況説明をしてもらっている。退院時は、ご家族、医師、病院ソーシャルワーカーと連携を行い退院時期の見極めを行いスムーズな退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、契約時に本人、ご家族との話し合いを行っている。また終末期にはご家族、かかりつけ医と話し合いの場をもうけ、方針を共有している。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針を明文化している。事業所が対応し得る支援方法について、利用開始時や必要時に家族等に説明を行っている。重度化の際は、家族等の意向を大切にしながら、職員やかかりつけ医を含めて合意を図り、全員で情報を共有して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について提携している訪問看護師に勉強会をしてもらっている。緊急時対応のフローチャート、緊急連絡網を作成し、職員に周知徹底している。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火設備の点検と避難訓練を実施している。倉庫及び各フロアの居間に災害に備えた備蓄をしている。	災害マニュアルを作成している。年２回、避難訓練を実施し、うち１回は夜間を想定した訓練を行っている。避難訓練を実施する際に、消防署に協力依頼を行っておらず、地域住民に呼びかけをしていない。非常用食料や備品は、事業所内に３日分保管している。	避難訓練を実施する際は、消防署や地域住民へ協力の呼びかけをお願いしたい。
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛け、対応が適切であるか常に意識するよう努めている。対応が難しい方は職員が変わって対応するなどその場の状況に応じたケアを心がけ、排泄、入浴時には特にプライバシーにも配慮したケアに努めている。	職員は入社時や内部研修で、利用者の人格の尊重やプライバシー確保について学び、知識を深めている。また、職員は人前であからさまな介護をしたり声かけをしたりして利用者を傷つけてしまわないように、さりげない声かけや支援に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で入居者の意向等を引き出すよう心掛けている。また、できるだけ本人が何事にも自己決定できるように配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりした時間の流れの中で一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用、毎朝の身支度はできない部分を支援しその人らしいおしゃれができるよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が食べやすいように食事の形態に気を付けている。時々、食事レクレーションを行ったり仕出しのお弁当なども取り入れ楽しんでいただいている。	食事は業者に委託しているが、出前をとったり、ホットプレートで焼きそばやお好み焼きを作る等、食事を楽しむ工夫をしている。利用者は食器を拭く等、できる範囲で食事の片づけを行っている。「グリーンスムージーを飲みたい」「夜食を食べたい」と希望があった時は、家族に買ってきてもらったり、事業所で準備して提供したりしている。	

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嚥下状態、咀嚼状態に配慮した食事形態を考え食事が安全に摂取できるように努めている。水分は好みのものを準備し脱水に配慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助を実施している。状態に応じ訪問歯科の往診を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は記録に残し一人ひとりの排泄パターンを理解するようにしている。定期的な声掛け、誘導により失敗なく過ごせるよう支援している。	職員は利用者一人ひとりの様子を見て、さりげなく排泄の支援をしている。また、尿意のない利用者がトイレで排泄できるよう、タイミングを見計らってトイレに誘導している。利用者が失禁した際は、周囲に分からないように、手早くさりげなく支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて把握している。定期的な排便を促すため適度な運動、水分補給、食事に心掛けている。また、必要な方は、主治医、訪問看護師、訪問薬局に相談し、服薬管理による排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	週3回入浴施行し、一人ひとりの状態に応じた入浴支援に努めている。 本人の体調に考慮し、きつそうな場合は、清拭にて対応している。	入浴は基本的に週３回としているが、希望があればいつでも入ることができる。入浴を望まない利用者に対しては、無理強いせず、話を聞きながら一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーション、適度な運動を行い夜間の安眠につながるよう努めている。体調に合わせ日中の臥床時間を設けるなど個々の状態に応じた対応に努めている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の把握ができるよう薬名、作用、用法等の情報は職員全員で理解・共有できるよう努めている。症状の変化に応じ主治医、看護師、薬剤師に相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるよう得意な部分を役割とし毎日の生活が単調とならないよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の重度化が進み以前よりも外出の機会は減ってきている、感染症対策を行いながら天気の良い日や気候に応じて散歩はできるだけ実施している。	天気や利用者の体調に合わせて、事業所周辺を散歩している。週１回、事業所前に移動販売車が来るので、利用者は外に出て買い物を楽しんでいる。桜やコスモスを見にドライブに行くこともある。また、家族の協力を得ながら、病院受診の帰りに食事をしたり、外泊をしたりしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設で金銭の持ち込みはないようにしている。ただし、ご本人、ご家族の意向があれば、所持していただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙を書かれる際の支援、ご家族からの電話の取次ぎなどご本人、ご家族の意向に応じ対応している。テレビ電話での通話も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは自然採光で風通し良く窓の外の景色も気持ちを和ませている。光に敏感な方もありカーテンを活用し落ち着いて過ごせる空間つくりに配慮している。	リビングは大きな窓から自然採光が入り、明るい雰囲気である。壁には季節を感じられる飾りや、利用者の書道の作品が飾られ、家庭的で居心地の良い空間となっている。職員は温湿度に気を配り、利用者がくつろいで過ごせるよう配慮している。	

自己評価および外部評価結果

令和6年3月28日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室と好まれる場所で自由に過ごしていただいている。テレビ前のソファーではテレビを観ながら気の合った方々が談笑されている光景が見られる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトはご本人、ご家族が入居前に相談され使いやすく、安全な配置を心がけている。使い慣れた家具などを持ち込み居心地の良い空間作りがされている。	居室には、家具やテレビ、家族写真、飾り物、本等が持ち込まれ、利用者が馴染みの物に囲まれて安心して過ごせるよう配慮している。居室で小説を読んで過ごされる利用者もいる。全室防火カーテンが備え付けれられている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、自力歩行できるように手すりを設置している。玄関には外出時のためにベンチをおいている。トイレも車いすでも対応可能なものを設置している。		

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
			○	③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）		①毎日ある
			○	②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。（参考項目：9,10,21）		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。（参考項目：2,22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。（参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働けている。（参考項目：11,12）		①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
			○	③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
			○	③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

令和6年3月28日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした施設になるよう事業所理念をみんなが見れるよう各ユニットに掲示し理念に向かい行動できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	綾での活動を「綾だより」にまとめ回覧板にて紹介させてもらっている。		
3	―	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる文化祭にてささえ手ホーム綾で作成した作品の展示を行っている。 地域で行われる認知症声掛け運動に参加し地域住民との交流を行う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動報告・利用状況を説明報告し参加者の方々よりの情報やご意見を頂きサービス向上につなげるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故等あった場合は、すみやかに市町村窓口へ報告を行っている。また、運営推進会議等で事業所の活動報告等を行い、協力関係を築けるように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜以外は施錠せず鈴を取り付ける等で安全対策を行っている。身体拘束をせずに生活できるよう職員全員で話し合い実践に努めている。 身体拘束委員会にて3か月に1回身体拘束の勉強等を行っている。		

自己評価および外部評価結果

令和6年3月28日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員との面談やケアの実施内容を日常的に確認することで状況把握を行い虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年１回の社内研修にて勉強会がある他、外部研修に参加してもらい、参加内容をユニットミーティングにて周知し理解を深めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人・ご家族に説明を行い解らない部分がないか確認を行いながら理解して頂けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情・相談窓口を説明及び重要事項説明書に記載している。また、意見箱を設置し自由に意見をいただけるよう体制をとっている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回の職員会議を実施し職員との意見交換を行っている。また、必要時には個人面談を実施し一人一人の思いを確認し運営に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年１回法人による意向調査を実施、職員の意見や希望などを把握するようにしている。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、特に制限は設けていない。職員の経験や得意分野を活かし働くことでやりがいや自信を持って仕事ができるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で年１回、人権研修を実施している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会は、できるだけ確保できるように努めている。認知症介護実践者研修等も職員のキャリアアップの一環として受講する機会を設けている。連携する訪問看護による勉強会も年3回実施している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域医療ネットワークに加入して、勉強会等に参加し、事業所の運営にいかすようにしている。 また他事業所の運営推進会議に参加させてもらい良い点を取り入れるようにしている。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談や入居前の利用サービス機関からも情報収集し環境の変化があっても安心して生活していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望や困られていることをうかがい不安を解消し、信頼関係を少しずつ築くよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関等との連携をとり、ご本人の状態、ご本人・ご家族の意向を踏まえ、サービス計画を作成し、支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に合わせ出来る部分は職員と一緒に行い支え合いながら生活できる環境に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他科受診などご家族が付き添える部分は可能な限りお願いしている。必要な備品などの買い物をご家族にお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向などにより配慮が必要な場合を除き、来訪・面会については感染症対策を取りつつに受け入れるようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性に配慮し職員が間に入ったり、入居者同士の歓談は見守る等孤立することのないよう注意を払うよう心掛けている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談があればいつでも連絡をいただけるようお伝えしている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の生活リズムに合わせ、時々の要望を把握し対応するよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至る経緯や以前の環境に配慮しご本人、ご家族の意向を確認しながらサービスに活かすよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化に気付き、その都度、状態把握を行い、ご本人が持っている力が発揮できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や意向の確認を行い、医師の意見も反映しプランを作成している。また、月1回のケアカンファで状態確認や課題の抽出を行い介護計画に反映している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に心身の状態の記録を記入し職員全員で把握に努めている。申し送り、職員会議で再度確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に出来るだけ添えるよう柔軟なサービスが行えるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の状態に応じ、公園等に散歩に出かけている。公民館にて文化祭を行いささえ手ホーム綾で作成した作品を地域住民の方にみてもらっています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に確認し、かかりつけ医による往診で対応している。特変時には電話連絡により指示を仰いでいる。また、訪問歯科、訪問皮膚科、訪問看護とも連携し対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、訪問看護師と協力し、日常的な気づきを報告し、連携をとっている。訪問看護師も顔なじみになり入居者の方も安心されておられる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は主治医より入院先の医療機関に連絡を行い状況説明をしてもらっている。退院時は、ご家族、医師、病院ソーシャルワーカーと連携を行い退院時期の見極めを行いスムーズな退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、契約時に本人、ご家族との話し合いを行っている。また終末期にはご家族、かかりつけ医と話し合いの場をもうけ、方針を共有している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について提携している訪問看護師に勉強会をしてもらっている。緊急時対応のフローチャート、緊急連絡網を作成し、職員に周知徹底している。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火設備の点検と避難訓練を実施している。倉庫及び各フロアの居間に災害に備えた備蓄をしている。		
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛け、対応が適切であるか常に意識するよう努めている。対応が難しい方は職員が変わって対応するなどその場の状況に応じたケアを心がけ、排泄、入浴時には特にプライバシーにも配慮したケアに努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で入居者の意向等を引き出すよう心掛けている。また、できるだけ本人が何事にも自己決定できるように配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりした時間の流れの中で一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用、毎朝の身支度はできない部分を支援しその人らしいおしゃれができるよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が食べやすいように食事の形態に気を付けている。時々、食事レクレーションを行ったり仕出しのお弁当なども取り入れ楽しんでいただいている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嚥下状態、咀嚼状態に配慮した食事形態を考え食事が安全に摂取できるように努めている。水分は好みのものを準備し脱水に配慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助を実施している。状態に応じ訪問歯科の往診を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は記録に残し一人ひとりの排泄パターンを理解するようにしている。定期的な声掛け、誘導により失敗なく過ごせるよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて把握している。定期的な排便を促すため適度な運動、水分補給、食事に心掛けている。また、必要な方は、主治医、訪問看護師、訪問薬局に相談し、服薬管理による排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	週3回入浴施行し、一人ひとりの状態に応じた入浴支援に努めている。 本人の体調に考慮し、きつそうな場合は、清拭にて対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーション、適度な運動を行い夜間の安眠につながるよう努めている。体調に合わせ日中の臥床時間を設けるなど個々の状態に応じた対応に努めている。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の把握ができるよう薬名、作用、用法等の情報は職員全員で理解・共有できるよう努めている。症状の変化に応じ主治医、看護師、薬剤師に相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるよう得意な部分を役割とし毎日の生活が単調とならないよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の重度化が進み以前よりも外出の機会は減ってきている、感染症対策を行いながら天気の良い日や気候に応じて散歩はできるだけ実施している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設で金銭の持ち込みはないようにしている。ただし、ご本人、ご家族の意向があれば、所持していただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙を書かれる際の支援、ご家族からの電話の取次ぎなどご本人、ご家族の意向に応じ対応している。テレビ電話での通話も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは自然採光で風通し良く窓の外の景色も気持ちを和ませている。光に敏感な方もありカーテンを活用し落ち着いて過ごせる空間つくりに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

令和6年3月28日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室と好まれる場所で自由に過ごしていただいている。テレビ前のソファーではテレビを観ながら気の合った方々が談笑されている光景が見られる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトはご本人、ご家族が入居前に相談され使いやすく、安全な配置を心がけている。使い慣れた家具などを持ち込み居心地の良い空間作りがされている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、自力歩行できるように手すりを設置している。玄関には外出時のためにベンチをおいている。トイレも車いすでも対応可能なものを設置している。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
			○	③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。（参考項目：9,10,21）		①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
			○	③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。（参考項目：2,22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。（参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働けている。（参考項目：11,12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
			○	③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない